

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	1047.70	2023/01/23
High	1062.50	2023/01/25
Low	1001.80	2023/01/27
Close	1015.60	2023/01/27

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4359.00	2023/01/23
High	4442.00	2023/01/25
Low	4185.00	2023/01/27
Close	4239.00	2023/01/27

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	1736.00	2023/01/23
High	1753.38	2023/01/23
Low	1611.38	2023/01/27
Close	1622.77	2023/01/27

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	7249.00	2023/01/23
High	7334.00	2023/01/23
Low	6729.00	2023/01/27
Close	6774.00	2023/01/27



ニュースエクスプレス

インドでグリーン水素を使う鉱山トラックの開発でプラチナ需要喚起

グリーンイニシアティブの一環として、インドで燃料電池による鉱山トラックが導入される動きとなった。このエミッションフリーの燃料電池トラックにはPGMをベースとする固体高分子形燃料電池技術が採用され、PGM鉱山会社にとっては朗報だ。

インドのアフマダーバードを拠点とする多国籍企業 Adani Group傘下の Adani Enterprises Limited (AEL)は、カナダのパラード・パワー・システムズ社、インドの自動車メーカー、アショク・レイランド (Ashok Leyland) 社と手を組み、気候変動による環境破壊を食い止める対策として、初となる燃料電池で動く大型トラックをインド国内で導入するための開発に着手する。

Adani 社は既に500億ドルをこえる資金をグリーン水素に投入することを発表しているが、グリーン水素の製造にはPGMベースの固体高分子膜水電解装置が使われ、ゼロエミッションの脱炭素化の手段として評価されている。計画では年間300万トンのグリーン水素を生産する。インド政府のNational Green Hydrogen Mission では2035年までに製造業でのネットゼロを目指している。

インド国内の報道機関や国際報道機関によると、AEL 社が燃料電池による鉱山トラック開発を主導し、パラード社が同社の FCmove™ 燃料電池エンジンを提供、アショク・レイランド社が車体の開発を行う。

鉱山トラックの重量は 55 トン、航続距離は 200 キロ、120 kW の固体高分子形燃料電池を搭載する。パラード・パワー・システムズ社のCEO、Randy MacEwen氏によると 同社の燃料電池の水素充填にかかる時間は短く、最大積載量も大きい。

水素協議会によると2050年までに水素は世界の燃料需要の 18% を占める可能性がある。

PGMは内燃機関が排出する有毒ガスを浄化するのに不可欠だが、燃料電池自動車やグリーン水素を生産するための水電解装置など、今後の成長が見込まれる水素経済においても重要な役割を果たす。

https://www.miningweekly.com/article/green-hydrogen-mine-mobility-on-way-in-india-to-platinum-applause-2023-01-19/rep_id:3650

クリーンエネルギーへの転換、パラジウムとイリジウムで正反対の需要見通し

パラジウム価格は、自動車需要が回復する中、供給不安などで乱高下が続いているが、一方でグリーン水素に関連するイリジウムの需要が伸びている。

クリーンエネルギーへの転換が進む中で、内燃機関自動車の浄化触媒装置に使われるパラジウムの需要は減っていくとされるが、一方で水電解装置に使われるイリジウムの需要は増えている。

パラジウム価格は、ウクライナでの戦争の影響でロシアからの供給に懸念がもたれ、昨年3月に過去最高値となる 3060ドル/オンスまで高騰した。ロンドン・プラチナ・パラジウム市場は4月にロシアの精錬所をグッドデリバリーリストから除外したが、市場は自動車需要の減少で余剰が続いた。

グリーン水素の普及でイリジウム需要
パラジウム需要の長期的な見通しは不透明だが、一方で、水素産業で固体高分子膜水電解装置の普及が広がったことでイリジウムは需要が上向き、昨年の底値から上昇している。

イリジウムの需要は、水電解装置が産業規模で主流になるにつれて2023年以降も増加が見込まれる。欧州の製鉄産業はグリーン水素を使って脱炭素化を進める計画だ。鉄鉱石の還元過程で、化石燃料を使う代わりに、再生可能エネルギーによる水電解装置を使って生産された水素を使うことで炭素排出を減らすことができる。ヘレウスによると欧州では2030年までに少なくとも14 の工場で敷地内の水電解装置からの水素を燃料として使う試みが見込まれる計画だ。

オーストリアの製鉄工場では欧州連合の援助を受けて、6MW の固体高分子膜水電解装置を使い直接還元法による製鉄方法の試験を進めており、欧州連合ではその結果を待って、この新しい方法による炭素排出削減技術の開発をさらに進めることにしている。

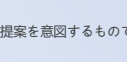
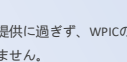
<https://www.argusmedia.com/en/news/2410088-pd-ir-outlooks-diverge-in-clean-energy-transition>

Translated by Osawa KAZUKO

WPIC直近の活動

- 本田技研は来年、2023年新型「CR-V」をベースとした新型燃料電池自動車の生産を米国で始める。このゼロエミッション車は、2040年までに世界で販売する自動車の100パーセントをバッテリー電気自動車と燃料電池自動車にするというHondaの目標の一環だ。詳しくはプラチナ豆知識（発展する燃料電池）をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum>



(@wpicjapan)

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。